

鉄道の開通

明治政府によって、近代化のための交通整備が進められ、1872(明治5)年、新橋(現・汐留)～横浜間に鉄道が開通した。汽車は陸蒸気とよばれて、文明開化を代表する交通機関だった。人々は汽車の速さにおどろき、その便利さを知った。

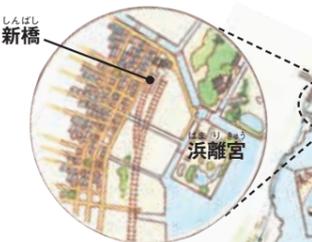


<港と市場をつなぐ>

鉄道は、開港でにぎわう横浜と、開市(→p.68)でにぎわう東京をつないだ。これにより、人の交流や物資の流通が活発になった。鉄道は、輸出を増やして豊かになりたいと考える日本をあとおした。

●時間はどのくらいかかったの?

新橋～横浜間の距離は約30kmで、所要時間は53分だった。このころは徒歩で移動する人が多く、その移動は片道1日がかかりだったため、人々は汽車の速さにおどろいた。



徒歩では無理だった日帰りが、汽車なら可能になったのね!



●新橋停車場
日本最初の鉄道の起点。日本の鉄道事業はイギリスのしくみをまねて行われた。開通当時につかわれた汽車はイギリスから輸入されたもので、運転士もイギリス人だった。

●いくらで乗れたの?

運賃には上中下の3等級があった。料金は、上等が1円12銭5厘、中等が75銭、下等が37銭5厘で、下等料金ですら米が約15kgも買えるほど高額なものだった。

安い料金ではなかったけど、座っているだけで目的地に着くんだから、何より楽だね!



新橋は東京の玄関口

鉄道がしかれると、横浜港から入ってきた外国の文化が汽車に乗って東京にやってきた。そのため新橋は、東京における西洋文化の玄関口となった。建設中だった銀座れんが街が完成すると、そこには旅館や舶来品をあつかう唐物屋(→p.79)が店を出し、東京でいちばんのにぎわいをみせた。



●人々でにぎわう銀座通り

銀座れんが街は、西洋家具店や洋服店、新聞社などが入って、ハイカラな町となった。銀座通り(中央通り)は、日本ではじめて馬車道と歩道を分けた通りだった。

地方からの旅行者が駅前の旅館にとまったんだね。



●銀座はなかつぎ地点

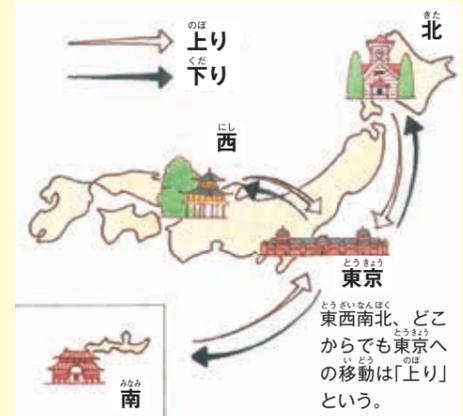
銀座は新橋停車場に近く、役所の多い丸の内方面へ行くのにも、問屋街の日本橋方面へ行くのにも便利だった。そのため多くの旅館ができた。

西澤旅館
停車場近くにあった当時の旅館。



東京行きが「上り」になった

明治政府になり、天皇の住まいが首都の東京(江戸)に移ると、東京へ行くことを東京へ上ると改められた。明治時代以前までは、天皇が住んでいた京都へ行くことを京へ「上り」といい、江戸へは「下り」という。



国をあげての鉄道事業

1872(明治5)年10月14日、新橋～横浜間の鉄道開業式が行われた。鉄道事業は殖産興業の政策を実現するために、明治政府が進める大いなる事業で、国家規模で進められた。開業式はたいへん大がかりな式典で、国内外の上流階級の人々や明治天皇もまねいて、新橋と横浜の両停車場で盛大に行われた。



新橋で行われた開業式のようす。

鉄道で時間を統一した

西洋に合わせて定時法(→p.77)に改められた時刻は、鉄道によっても広められた。駅に着く時間、駅を出る時間が正確でないとならぬためだ。鉄道の広がりとともに、正確な時間も広がった。

